



平成 17 年 8 月 4 日

各 位

上 場 会 社 名	ニッシン債権回収株式会社
代 表 者	代表取締役社長 天 野 量 公 (東証マザーズ コード番号: 8426)
問 合 せ 先	経営企画部長 山 口 達 也
電 話 番 号	(東京) 0 3 - 5 3 2 6 - 3 9 7 1
当社の親会社	株式会社ニッシン
代 表 者	代表取締役社長 寄 岡 邦 彦 (東証第一部 コード番号: 8571)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成 17 年 5 月 9 日の決算発表時に公表しました、平成 18 年 3 月期(平成 17 年 3 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日)の中間及び通期業績予想を、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 18 年 3 月期中間業績予想(連結・個別)の修正(平成 17 年 4 月 1 日～平成 17 年 9 月 30 日)

(1) 中間連結業績

(単位: 百万円)

	営業収益	経常利益	中間純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	5,139	837	500
今 回 修 正 予 想 (B)	6,212	1,001	587
増 減 額 (B - A)	1,073	164	87
増 減 率 (%)	20.9	19.6	17.4
前中間期実績 (平成 17 年 3 月期)	3,344	760	446

(2) 中間個別業績

(単位: 百万円)

	営業収益	経常利益	中間純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	4,887	743	440
今 回 修 正 予 想 (B)	4,666	657	388
増 減 額 (B - A)	221	86	52
増 減 率 (%)	4.5	11.6	11.8
前中間期実績 (平成 17 年 3 月期)	3,293	758	446

(3) 修正の理由

不良債権処理に関連する不動産取引について

従来、ニッシン債権回収(個別)において取り扱っておりました不良債権処理に関連する不動産取引につきましては、業務効率及び経営資源の配置等を勘案し、原則として連結子会社(有)ジェイ・ワン・インベストメンツ(100%子会社)において取り扱うことといたしました。これにともない、前回業績予想発表時には、ニッシン債権回収(個別)に計上しておりました不動産につきましても(有)ジェイ・ワン・インベストメンツに計上することに変更いたしました。

中間連結業績

不良債権処理に関連する債権買取、不動産買取について順調に進捗し、第1四半期の業績も概ね計画通りに推移しており、中間期には買取債権回収高の増加等が見込まれることから、営業収益、経常利益、中間純利益について上記のとおり修正いたしました。

中間個別業績

債権回収高の増加等が見込まれるものの、上記の理由により、営業収益、経常利益、中間純利益について上記のとおり修正いたしました。

2. 平成18年3月期通期業績予想(連結・個別)の修正(平成17年4月1日～平成18年3月31日)

(1) 連結業績

(単位：百万円)

	営業収益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	12,722	2,308	1,372
今回修正予想(B)	15,145	2,726	1,600
増減額(B-A)	2,423	418	228
増減率(%)	19.0	18.1	16.6
前期実績(平成17年3月期)	11,198	1,761	1,022

(2) 個別業績

(単位：百万円)

	営業収益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	12,257	2,127	1,261
今回修正予想(B)	10,786	1,496	885
増減額(B-A)	1,471	631	376
増減率(%)	12.0	29.7	29.8
前期実績(平成17年3月期)	10,931	1,651	963

(3) 修正の理由

連結業績

不良債権処理に関連する債権買取、不動産買取について順調に進捗しており、中間期における買取債権回収高の増加及び下期における買取不動産売却高の増加等が見込まれることから、営業収益、経常利益、当期純利益について上記のとおり修正いたしました。

個別業績

中間業績と同様の理由により、業績予想を修正しております。

3. 将来予測に関する記述について

本資料には、当社グループの意図、信念、現在及び将来の予測、または連結、個別の業績、財務状況に関する経営陣の意図、信念、現在及び将来の予測に関する記述が収録されております。記載されている歴史的事実以外の将来に関するすべての記述につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測であります。かかる将来予測に関する記述は、将来の業績を保証するものではなく、潜在的なリスクや不確実性を伴うものであり、実際の業績は様々な要因により将来予測に関する記述とは大きく異なる可能性がありますのでご注意ください。

実際の業績に影響を与えうる潜在的なリスクや不確実性を伴う要因には、以下のようなものが含まれます。

- ・ 日本国内の経済環境の回復に伴う不良債権の流動化市場の収縮
- ・ 競争激化による特定金銭債権の買取価格の水準の高騰及び受託手数料の低下による利益率の下落
- ・ 回収期間の長期化による収益性の悪化
- ・ 債権管理回収業に関する特別措置法の改正
- ・ 好条件での資金調達先の有無及び金融政策等の変更による影響
- ・ 親会社である(株)ニッシンの事業戦略及び経営成績等
- ・ 当社の利用する情報、基幹システム及びネットワークシステムの信頼性

ただし、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではなく、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響等によって、新たなリスクや不確実な要素が発生する可能性があります。

以 上